



from WASHINGTON, D.C.

## New IMF?

本稿では、近年大きな変ぼうを遂げている IMF について、ご紹介したいと思います。

まずは融資制度の改革です。従来、IMF は「世界の最後の貸し手」として、危機国に強力な政策プログラムを課すことを条件とした融資が主体でした。もっとも、近年は、世界の金融安全網としての要請に応えるべく「危機予防」を目的とした融資制度を創設しています。具体的には、ある一定の経済の基礎的条件と政策枠組みを備える国には、コンディショナリティーと呼ばれる事前の融資条件を課さずに（あるいは限定した形で）信用を供与する制度です。同制度の下、多くの加盟国が、国際金融市場へのアクセスを失うことなく、危機の波及を未然に防止する効果が期待されます。



IMF 年次総会前の本部内の様子



ワシントンD.C. の IMF 本部

第2の取り組みは、サーベイランス（政策監視）の強化です。IMF は、G20 諸国のマクロ政策を相互に監視する「G20 相互評価プロセス」や世界金融経済が内包するリスクや脆弱性を早期に警戒するための取り組み（「EWE 〈Early Warning Exercise〉」）を取りまとめています。また、世界全体あるいは個別の国に着目した既存の分析に加え、金融・経済システム上重要な5カ国（米国、日本など）の政策が、その他の国・地域に及ぼし得る影響についての分析も始まっています。そのほかにも、金融面の世界的な相互関連の高まりを受けて、主要な金融マーケットを有する国々に対して、FSAP と呼ばれる包括的な金融部門の調査を義務付けるなど、「It's Mostly Fiscal」（「常に財政再建」）とやゆされた IMF とは異なる姿へと進化を遂げています。

最後はガバナンスの改革です。現在、加盟国の出資額の割合や理事会の規模・国別構成の改革を通じて、新興国・開発国の発言力拡大が検討されています。また、スタッフについても、国・性別・専門性の面での多様化を進めることで、より透明で強力な組織づくりが進められています。

さあ、危機の收拾だけでなく、その未然の防止やグローバルな政策コーディネーターとしての「New」IMF にぜひともご期待ください。

（国際通貨基金 〈International Monetary Fund〉  
本部、ワシントン）